

東京農工大学 ニュースレター

冬号

地球をまわそう。MORE SENSE! 農工大



巻頭
特集

東京農工大学関連団体のご紹介 東京農工大学同窓会 / 東京農工大学出版会



- 平成20年度(平成21年3月)進路の状況について
- 農工大ブランド焼酎「賞典禄」インターネット販売を始めました!!
- 男子寮リニューアル!!
- 大学からのお知らせ

東京農工大学同窓会

1962(昭和37)年の設立以来、2012(平成24)年には節目の創立50周年を迎える「東京農工大学同窓会」。同窓会は、4万人を超える卒業生をつなぐネットワークの拠点として存在するとともに、現役学生への援助も積極的に行っています。今回は、2009年5月30日の総会において新しく同窓会長に選任された藤森明彦氏に登場いただき、初めて大学と連携して進める事業となる「東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業『地球をまわそう農工大記念プロジェクト』」などについて、お話を伺いました。



東京農工大学同窓会
藤森 明彦 会長

プロフィール

昭和42年3月 東京農工大学工学部工業化学科卒業
昭和44年8月 藤森工業(株)入社
平成 3年6月 藤森工業(株)代表取締役社長就任
平成21年5月 東京農工大学同窓会長就任

2009年5月から同窓会長に就任されましたが、現在の心境をお聞かせください。

同窓会は1962(昭和37)年4月10日に設立され、来たる2012(平成24)年に創立50周年を迎えます。また、東京農工大学も母体が創立された1874(明治7)年から数え、2014(平成26)年には創基140周年となります。この記念すべき時期を迎えるにあたり、大学と同窓会が合同で「地球をまわそう農工大記念プロジェクト」を展開中です。これは

大学と同窓会とが、初めてタイアップして進める事業になります。こうした大きなプロジェクトが動く時期に、同窓会の会長という大役を担うことになり、その責任の重さを実感しています。

例えば、我々が通っていたころの農工大は、世間的な認知度が低く、学生たちは歯がゆい思いもしたものです。それだけ大学への帰属意識も希薄だったような気がします。しかし、最近は新聞をはじめ多くのメディアで母校の名称が頻繁に取り上げられるようになりました。

最先端の研究成果に関する記事はもちろんですが、「生協の白石さん」やアメリカンミニホース誕生など、幅広い人々に支持される話題が数多く報道されることは、大学が大きく発展している証であり、我々同窓生も大変喜ばしく感じております。

同窓会のおもな活動内容について教えてください。

卒業生をつなぐネットワークの拠点となるべく、さまざまな活動に取り組んでいます。例えば、会員の相互情報通信をはかるために同窓会報「農工通信」を毎年発行。そして4年ごとに「会員名簿」も作成し、会員同士の情報交換に役立っています。また、母校や在学生への援助も同窓会の大きな役割。学園祭など母校行事への援助、新入正会員歓迎行事の実施、学生の学会発表や各種大会出場への援助なども積極的に行っています。

なお、同窓会には、卒業学科等をもとにした「部会」と、都道府県単位での「支部」とがあり、各地の支部活動・地域活動を援助し、母校の最新情報を会員の方々にきめ細かくお知らせできる体制を築いています。間もなく創立50周年を迎えますが諸先輩方が築かれた歴史があつてこそ、現在の充実した同窓会組織が存在しているのだとつくづく感じさせられます。

大学と連携する「東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業『地球をまわそう農工大記念プロジェクト』」の取り組みについて、同窓会の関わり方を詳しく教えてください。

本プロジェクトは、いくつかの事業からなっていますが、

このうち同窓会では、卒業生から要望の強い「卒業生が利用できる施設」の整備に重点的に取り組んでおります。具体的には、小金井地区への建設を計画している産業界と教職員・学生の交流の拠点となる「産学交流会館」内に、「卒業生が利用できるスペース」（小金井記念ホール）を新設したいと考えています。

ちょうど10年前、大学の創立50周年の際には、卒業生や教職員のご寄附により府中キャンパスに50周年記念ホールが完成しました。現在も卒業生や教職員、現役の学生が集うスペースとして有効に活用されていますが、小金井キャンパスには現状このような施設がありません。大学と同窓会との連携をより強いものにするためにも、小金井地区にも卒業生の拠点となる場所を確保することは、大きな意義があると思います。ただし事業の成功には、多くの方々のご協力が必要となります。現在も4万人を超える卒業生、教職員、そして本学を応援していただける企業にも寄附へのご協力をお願いしているところです。

同窓会としては、集まる金額の大きさよりも、より多くの方々に母校の発展のためにご協力いただけることの方が大切だと考えています。みなさんの母校への思いが集結して完成した交流スペースに集い、卒業生同士あるいは卒業生と在学生との絆が深まるのであれば、とても素晴らしいことではないでしょうか。

これから同窓会をどのように成長させていくとお考えですか。

同窓会は、何も卒業生だけに限ったものではありません。卒業生の保護者の方々、あるいは在学生や在学生の保護者の方々も含めた、農工大に関わるすべての人のた

めに存在しているものだと思っております。とくに最近の傾向として、学生の入学式や卒業式に保護者のみなさんが同行されるケースが多いようですが、保護者の方々が積極的に教育の場に共同参画されるのは素晴らしいことです。ぜひ、そういったみなさんのお力添えもいただきながら、同窓会の活動を盛り上げていきたいと考えています。

また、同窓会の会員を見渡してみましても、親子で農工大の卒業生という方々が数多く見受けられます。同時に農工大を卒業し、母校の教壇に立っている先生方も最近が増えてきました。このように母校への愛着や帰属意識が高まれば、同窓会としても非常にうれしいことです。卒業しても大学、卒業生、教職員が一体感を持てるような環境があれば、自然と同窓会も成長していくと考えています。

これからの「母校」への期待、および同窓会長としての決意を聞かせてください。

サブプライムローン問題に端を発したリーマンブラザーズの破綻など、世界規模で「パンドラの箱」をひっくり返したような、危機的状況が叫ばれています。こうした時代には、世の中を良くしていくための救世主が求められますが、農工大が未来への「ヴィジョン」として掲げている取り組みを実現させることこそ、いまの世の中を立て直す大きな力になると確信しています。つまり、時代に求められる人材を世に送り出す役割を農工大が担っており、同窓生を含めた本学関係者の実力が社会で生かされる必要があるのだと思います。同窓会長という職務は、大変重責であることには変わりありませんが、これから同窓生たちが社会で、そして世界で活躍する姿を

想像することは非常に楽しみであり、そんなみなさんのためにも同窓会をさらに充実させていけるよう尽力してまいります。

最後になりますが、私は2009年5月から会長職を仰せつかり、ご縁があつて農工大と同窓会との「合同記念事業」に関わることになりました。本プロジェクトの計画は、畑中前会長（現名誉会長）と小畑学長が2006（平成18）年から検討を開始し、多くの方々の協力のもとで現在に至っているものです。プロジェクトは2014（平成26）年までの長丁場ですが、同窓会としてもプロジェクトの成功を目指してまいります。みなさまからの温かいご協力を重ねてお願い申し上げます。



藤森同窓会長を囲んで（右から2人目・高橋副理事長、4人目・山田事務局長）

「大学が有する知の財産を広く社会に還元する」というコンセプトのもと2006年11月に発足した東京農工大学出版会。2008年5月の「知らなかった自然のふしぎシリーズ 人が学ぶ昆虫の知恵」の刊行を皮切りに、「植物の知恵」を同年10月に、「イヌの知恵」を2009年7月に相次いで発行しています。出版会の設立時より書籍の編集・発行に携わってこられた5名の理事に登場いただき、これまでの経緯や今後のビジョンなどについて語っていただきました。

東京農工大学出版会



代表理事

小野 隆彦

工学博士
東京農工大学理事・副学長
研究分野
音響情報学



理事

普後 一

農学博士
東京農工大学大学院教授
研究分野
昆虫内分泌／昆虫生理・生化学



理事

百鬼 史訓

博士(歯学)
東京農工大学大学院教授
研究分野
スポーツ科学



理事

中田 宗隆

理学博士
東京農工大学大学院教授
研究分野
分子分光／光化学



専務理事

花形 康正

東京農工大学農学部卒
テクノエディタ代表
元 日刊工業新聞社出版局
編集委員



東京農工大学出版会の設立の経緯と方針

小野 大学は知の創造体であり、同時にその成果を世に知らしめるところでもあります。しかし、私が広報・国際担当の副学長として2005年に着任したとき、本学にはその中心となる存在がないばかりか、プレスリリースさえも発行していませんでした。そこで、難しい内容のことをわかりやすく伝えるためのスタッフとノウハウを集結する出版会を設立しようということになったのです。しかも「東京農工大学」のブランドで営利を目的とせず、研究の成果や技術、知識を広く社会に還元するための団体として。

花形 私は理工系雑誌の編集に長く携わり、当時から「子どもたちの理科離れ」を危惧していました。これを何とかするためには、先生方の知識を社会に還元す

る方法があるのではないかと思ったのです。そこで、知識・知恵を「わかりやすく伝えるを実現するために、見開きページの半分に文章を、残りの半分にイラストを入れたデザインにしています。また、専門用語もひとつひとつを精査して、一般の人がわかるレベルを基準に、掲載するかしないかの判断をしています。

小野 あくまでスタートラインは、「難しい本は作らない、難しいことをやさしく問う」です。中・高生が理解できるもので、かつ、社会人にも受け入れられるものでなければなりません。そうしたテクニカルな部分でも花形さんの力が必要でした。

「人が学ぶ」シリーズの発行

普後 文字とイラストを半々にというスタイルは、想像以上に大変でした(笑)。かつて理科の教材を作っていた

経験があり、そのときに、知識を集積することで知恵になると感じたのです。シリーズの第一弾として発行した『昆虫の知恵』も、日常のふとした疑問がスタートだったりします。でも、読み終わると昆虫だけでなく、化学や生物、工学、農学にいたるまでさまざまな分野が網羅されていることがおわかりいただけると思います。

花形 それは、第二弾の『植物の知恵』、第三弾の『イヌの知恵』にも共通しています。今後は、ネコや微生物、馬、さらに大気や土壌など地球をテーマにしたものを刊行する予定でいます。さらに、『人が学ぶ』シリーズのほかに、工学系の内容で人が作り出したものをテーマに『人に学ぶ』シリーズなども手がけてみたいですね。そのときには、百鬼先生や中田先生にも執筆をお願いすることになると思いますが。

中田 私の専門は理学系ですが、子どもたちに基礎知識をわかりやすく伝えることで、理科離れに歯止めをかけることができればよいと思います。

普後 子どもたちの理科離れとともに、活字離れも問題です。インターネットの普及などもあり、わからないことを調べて考えるのではなく、もっと安易な方法に頼りがちですから、これを改善するには、やはり幼い頃から活字に親しんでおく必要があります。

中田 インターネットで得られる情報は膨大なものになっていますが、知識がないと、どの情報が正しくて、どの情報が信用できないのか判断が付きません。つまり、正しい情報を選び出す能力がないと、インターネットはとても危険なのです。それに引き替え、印刷された活字媒体は、専門家や編集者が何遍も目を通し、その人たちの知識をもって正しいかどうかの判断がなされてから世に流通しています。ですから、読み手に知識がなくても、安

心して信頼できる情報となるのです。

小野 この出版会で発行するものについては、「東京農工大学」の名前もあるわけですから、折り紙付きの保証といえるでしょう。

花形 あとは発行のタイミングということになると思います。閑雲にただ出せばいいというものではありませんから、ビジネス的な視点を織り交ぜ、効果的に刊行していくつもりです。

東京農工大学出版会からのメッセージ

小野 「人が学ぶ」シリーズは、マスコミに取り上げられたり、書評などでも紹介されています。そのなかで、東京農工大学出版会の意義やコンセプトを評価してもらえていると確信しています。

百鬼 発行物を通じてもっと広げていきたいと思うと同時に、多くの先生方に関わりを持ってもらうことも考えています。幸い本学にはさまざまなジャンルの第一人者がいますし、素材もたくさんあります。これまでのシリーズの充実にも、また違った形でも、十分に対応できます。さらに、大学の知的財産の発信を通して、東京農工大学の研究や教育を理解してもらうことにつなげていきたいと思っています。

花形 中・高生の知的好奇心をくすぐるだけでなく、新たな知識を取り込もうという社会人の方などにも役立つ本になっていますし、これからもそのスタンスは変わりません。まだ見たことがないという方は、ぜひお手にとつていただければと思います。

一同 これからも、東京農工大学出版会にご期待ください！

東京農工大学出版会発行の書籍紹介



東京農工大学出版会ではこれまでに多数の書籍を発行しています。本文で紹介した『知らなかった自然のふしぎシリーズ 人が学ぶ 昆虫の知恵』のほか、同シリーズでは『植物の知恵』と『イヌの知恵』がラインナップ。さらに、写真集『蝶の道—Butterflies』(著者は本学の卒業生で写真家の海野和男氏)など、自然や動植物を対象とした書籍も発行しています。お求めはお近くの書店にてお申し込みいただくか、書籍通販サイトをご利用ください。なお、上記以外にも多数の書籍があります。

詳しくは東京農工大学出版会までお気軽にお問い合わせください。

●『知らなかった自然のふしぎシリーズ 人が学ぶ』今後のラインナップ予定
ネコの知恵／微生物の知恵／花の知恵／馬の知恵／
森林の知恵／ミツバチの知恵／地球の知恵

ホームページ：<http://www.noukoudai-shuppan.com/>
TEL&FAX:042-367-6700

平成20年度(平成21年3月)進路の状況について

平成21年3月卒業の学部学生については、農学部生は約半数、工学部生は約7割が大学院への進学を選択していますが、就職を希望する学生も少なくありません。就職者のほとんどは、バイオ関係、薬品、化学、食品、ナノ関連、電気、機械、情報関係等、4年間で修得した知識や技術を十

分に発揮できるフィールドで活躍しています。

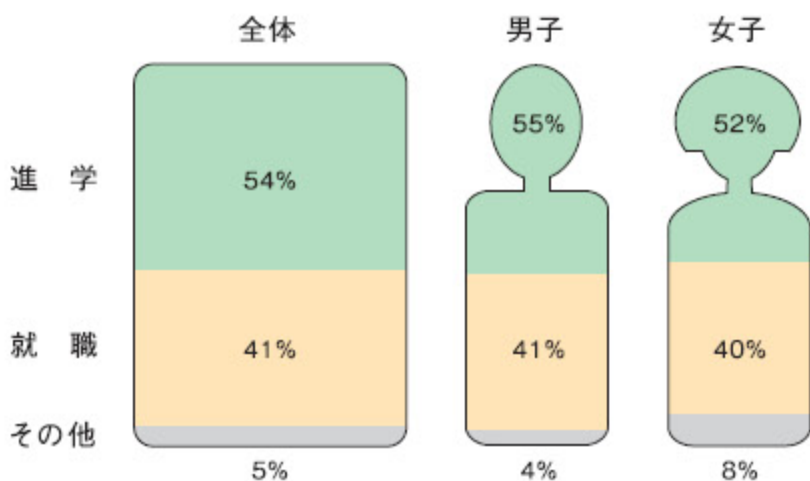
学部ごとの傾向としては、農学部は主に官公庁、工学部はメーカーへという特徴があります。

また、大学院生は、大手メーカーの研究開発職の即戦力として活躍しています。

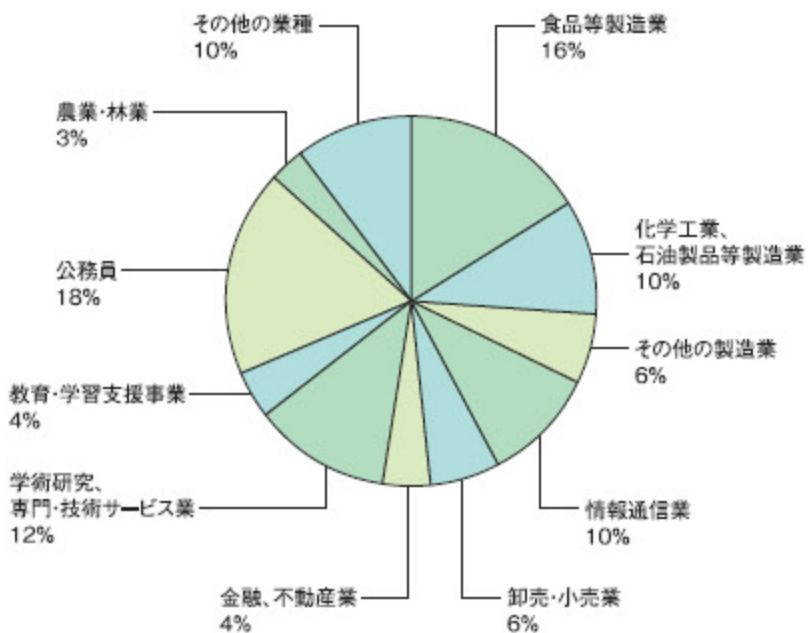
公務員に強い農学部

平成20年度農学部卒業生の進路状況

男子202名 女子116名 計318名



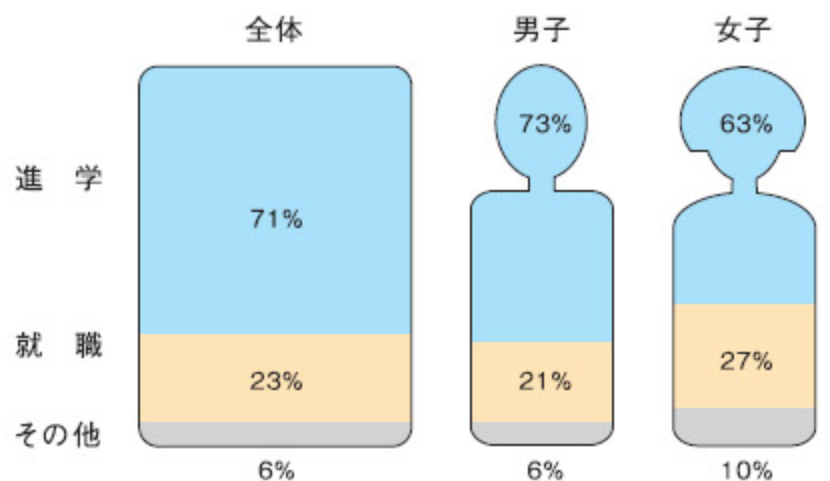
平成20年度農学部卒業生・農学府修了生の就職先状況



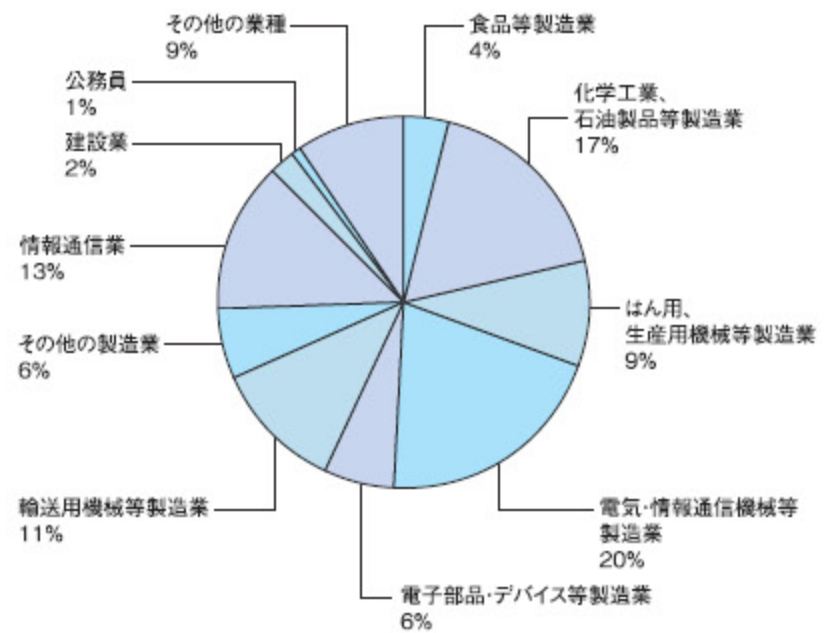
ものづくりに強い工学部

平成20年度工学部卒業生の進路状況

男子504名 女子108名 計612名



平成20年度工学部卒業生・工学府修了生の就職先状況



各学科・専攻の進路(進学・就職)等詳細は、こちらをご覧ください。 <http://www.tuat.ac.jp/career/syusyokujoukyo/index.html#p5>

主な就職先

農学部	農林水産省、林野庁、国土交通省、地方公務員、味の素、テイジン、旭化成ファーマ、明治製菓、日清丸紅飼料、家田化学薬品、野村證券、三菱農機、動物病院 等
工学部	東レ、森永乳業、日経BP、キャノン、IHI、Jパワー、電源開発、マツダ、三菱電機、富士重工業、本田技研工業、NEC、ブリヂストン、川崎重工業、オークマ、日産自動車、シャープ、KDDI、川崎マイクロエレクトロニクス 等
工学府(博士前期課程)	花王、大正製薬、日清食品、旭硝子、NOK、トヨタ自動車、神戸製鋼所、ジャムコ、住友化学、ブリヂストン、東レ、日産自動車、三菱重工業、コマツ、東芝、本田技研工業、キャノン、日立製作所、ソニー 等
農学府(修士課程)	農林水産省、環境省、林野庁、地方公務員、自然環境研究センター、住友林業、エーザイ、田辺三菱製薬、大鵬薬品、武田薬品工業、タキイ種苗、雪印乳業、明治製菓、キュービー、エーザイ、昭和シェル石油、東芝、本田技研工業、日本製紙 等
生物システム応用科学府(博士前期課程)	三菱重工業、東芝、リコー、セイコーエプソン、ソニー、竹中工務店、凸版印刷、ロッテ、キャノン、IHI、東京ガス、日立製作所、朝日新聞、トヨタ自動車、NTTDコモ、第一三共、雪印乳業 等

「賞典禄」インターネット販売を始めました!!

本学では、農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター(FSセンター)で栽培した

原料(米・芋・麦)で製造した焼酎「賞典禄(しょうてんろく)」を販売しています。

このたび、保護者の方をはじめ、多くの方に味わっていただけるようインターネットによる販売を開始いたしました。

配送先1ヶ所につき5,000円以上ご注文の場合には送料を無料にさせていただいておりますので、是非ご利用ください。

代金の支払方法は、代金引換かクレジットカードになります。詳しくは下記URLをご覧ください。



ネットショップサイト

<http://www2.enekoshop.jp/shop/noukoudai/>

(FSセンターのHPからもご覧いただけます。)

※電話、FAXでのご注文はできませんので、予めご了承ください。

ネット販売対象商品



原酒 米焼酎(つば入り)



原酒 麦焼酎(つば入り)



米焼酎



芋焼酎



麦焼酎

商品種類	度数	容量	販売価格(税込)
原酒 米焼酎(つば入り)	43度	720ml	2,700円
原酒 麦焼酎(つば入り)	43度	720ml	2,700円
米焼酎	25度	720ml	1,700円
芋焼酎	25度	720ml	1,700円
麦焼酎	25度	720ml	1,700円
米・芋・麦 3種セット (セット用化粧箱入り)	各25度	720ml×3	5,100円

おすすめ

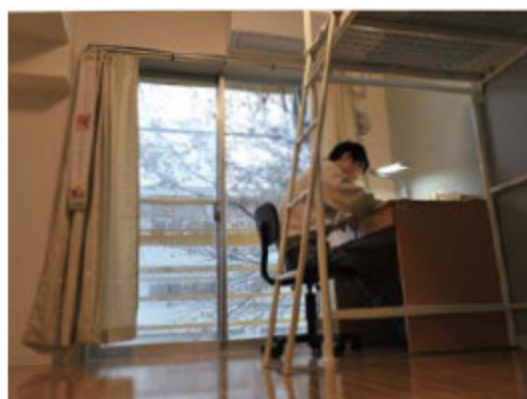
米焼酎と麦焼酎については、それぞれ原酒をご用意しております。原酒は焼酎の個性そのものが凝縮されていてレギュラー焼酎とはまた一味違う魅力がありますので是非お試しください。

(芋の原酒も今後発売する予定です。)

お問い合わせ先

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター事務室 TEL042-367-5812

男子寮リニューアル!!



ロフト式のベッドを設置し、広々とした居室

本学男子寮(樺寮・小金井キャンパス)のリニューアルが一部完成いたしました(表紙写真)。共同部屋(4人部屋と2人部屋)からワンルーム形式(完全個室)へと変更、学生たちのプライバシーも確保され、よりよい学習環境・生活環境を整えることができました。来春の全面完成を目指し、更に工事を行っています。これに併せ小金井キャンパスに女子寮も完成予定。今後、ニュースレターや本学WEBで詳細をお知らせする予定です。ご期待ください。



談話室でくつろぐ在寮生

大学からのお知らせ

東京農工大学創基140周年 同窓会創立50周年合同記念事業

—地球をまわそう農工大記念プロジェクト—

東京農工大学は、平成26(2014)年に創基140周年を、平成24(2012)年には同窓会創立50周年を、それぞれ迎えることとなります。この記念すべき時期に、本学の更なる発展を期するため、「東京農工大学創基140周年・同窓会創立50周年合同記念事業」—地球をまわそう農工大記念プロジェクト—を実施しています。詳しくは同封の趣意書をご覧ください。

メールマガジン登録受付中

大学から毎月1回、学内ニュースや様々なお知らせなどをお届けします。

●登録方法 http://www.tuat.ac.jp/mail_magazine/index.html

【パソコンの場合】右記URL(登録サイト)からお申し込みください。URL → <https://mdh.fm/e?kB003BH5wm>

【携帯電話の場合】下記メールアドレスに空メール(本文・タイトルを記入しない)を送信すると自動的に携帯用登録URLが返信されますので、そちらからお申し込みください。空メール用アドレス → tat@am.md

お問い合わせ窓口

修学・学生生活の相談等は、クラス担任・学生生活委員等の先生が対応します。次の窓口にお問い合わせください。

お問い合わせ内容	お問い合わせ窓口	電話番号等
○修学に関する質問・相談 履修、成績、卒業、休学、退学 等	府中地区および小金井地区 学生サポートセンター教務係	農学部 042-367-5662 E-mail a-kyomu2@cc.tuat.ac.jp 工学部 042-388-7010 E-mail tkyomu1@cc.tuat.ac.jp
○学生生活に関する質問・相談 就職、奨学金、授業料免除、 災害傷害保険、ハラスメント 等	府中地区および小金井地区 学生サポートセンター学生生活係	農学部 042-367-5579 E-mail a-gksei@cc.tuat.ac.jp 工学部 042-388-7011 E-mail tkkousei@cc.tuat.ac.jp
○健康相談・精神保健相談 等	保健管理センター	府中地区 042-367-5548 小金井地区 042-388-7171

住所変更をされた ご父母の方へ

本誌は、平成21年10月現在、大学に登録されている「学生の保証人住所」に郵送しております。住所変更の手続きは、学生本人が所属学部・学府等に出向き、届出を行わなければなりません。まだ住所変更を届けていない方は、お子様(保証している学生)に手続きを行うようご指導願います。

●大学WEBサイト案内/本学最新情報は大学WEBサイト(<http://www.tuat.ac.jp/>)に随時掲載していますので、是非ご覧ください。